

利賀っ子だより



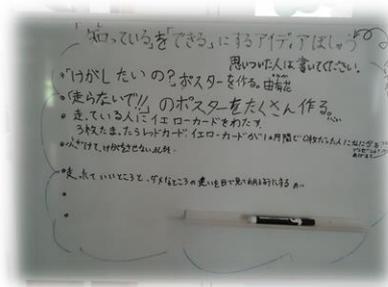
R4. 5. 27

○ 「分かる」と「できる」

利賀小学校は、各教室に扉がなく、廊下と教室の境がありません。学校全体がオープンなつくりとなっています。ゆったりとした空間が子供たちの伸び伸びとした活動を支えています。一方、広いためにつつい走って移動してしまう様子も見られます。

先日、生徒指導主事から「校内で走ってもよいところ」「校内で走ることの危険性」について話がありました。全員が、校内を走って移動することはよくないと「分かっている」けれど「できない」ことがはっきりしました。そこで、「分かっている」を「できる」にする方法を1週間かけてみんなで考えました。ポスターを作る、走ったらカードを渡す、走らなかつたらプレゼントをする等、いくつかのアイデアが出されました。それについて、再度、全校で話し合いました。それぞれの案によいところや不都合なところがあり、最終的には「今日、話し合ったことを掲示しておき、互いに声をかける。各自が意識する。」という方法でしばらく試してみることにしました。

今回は、教員からの問題提起でしたが、今後も自分たちの暮らしをよりよくするために課題を見付け、仲間と相談しながら解決方法を探っていくことを大切にしていきたいと思います。



【みんなのアイデア】

○ 朝の会のフリートーク



【Tさんに寄り添うお兄ちゃん】

利賀小学校では、いろいろな人の話を聴いたり、大勢の前で話したりする貴重な機会として全校合同朝の会で「フリートーク」の時間を設けています。

この日は、1年生のTさんが話をする番でした。なかなか話し出せないTさんの様子を見て、Tさんのお兄ちゃんがそばに駆け寄り、何かささやいていました。それでも、沈黙が続きました。Tさんに声をかけようかと思ったとき、あちこちから「昨日のこと」「家でしたこと」「自主勉強のこと」「夕飯のこと」など、話題のヒントになる声がかかりました。Tさんを応援しようとする上級生の気持ちが届いたのでしょう。Tさんは、堂々と前日の自主勉強の話をする事ができました。

この時間が子供たちにとってよりよい時間となるよう、教員も研修を重ねていきます。

(高田 公美)